

令和5年度 学校評価【全日制】

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月15日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、専門教育の充実、共通教科と専門教科のバランスに配慮した教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②専門教育充実のため、資格取得の推進、企業や大学、専門学校等との連携など、工業高校としての魅力をより一層充実する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的活動を推進する。</p>	<p>①一人一台端末の導入を契機にICTの利活用をさらに推進し、生徒に確かな学力が身につく授業づくり及び組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②専門教育充実のため、資格取得に向けた関心・意欲を向上させる。また、工業教育の充実を図るため、企業・上級学校等との連携事業を推進する。</p> <p>③生徒の主体的な活動を促進し、様々な地域貢献活動を通して生徒の自己肯定感を高める。</p>	<p>①引き続き、ICTを活用した組織的な授業改善を行うため「学習がより深まるICT利活用」をテーマに授業研究を推進していく。</p> <p>②授業の他、企業・上級学校との連携事業等を通して、現実的な視点・イメージを伝え、資格取得への関心・意欲の向上を促す。また、取得に向けた案内はもとより、丁寧な指導・補習を行う。</p> <p>③文化祭・体育祭・球技大会等の運営を生徒主体で行うことで企画力・適応力を育む。また既存行事だけでなく外部との域連携行事を活用し、コミュニケーション能力や社会性を高める。</p>	<p>①研究授業の際に生徒アンケートを実施し、ICTを活用することで、授業における学習がより進んだ、あるいは深まった、という肯定的な意見が8割を超えたか。</p> <p>②資格に関する相談等どれだけ対応でき、それに伴う受検者数が前年と比べ増加につながったか。また、合格率の維持・増加はできたか。</p> <p>③既存行事や外部との連携行事を通じて企画力、対人関係能力を身に付けるとともに自己肯定感を高められたか。</p>	<p>①ICTを活用した組織的な授業改善「学習がより深まるICT利活用」をテーマに授業研究を実施している。</p> <p>②高大連携事業の一環として大学生のインターンシップを受入れ、生徒への良い刺激になるきっかけとなった。また、第2種電気工事士試験の講習会に他科生徒も参加した。</p> <p>③校内行事について、生徒会本部が主体で企画し、各委員会の生徒同士が協力して行っている。また、新校に向けて両校生徒会が集まり制服や生徒会規約について意見交換をした。</p>	<p>①生徒アンケートを実施し、ICTを活用することで、授業における学習がより進んだ、あるいは深まった、という肯定的な意見が8割を超えた。今後とも取り組んでいく。</p> <p>②講習会を設定する時間が早朝等、限られているため、参加できない生徒がいる。また、担当職員の負担も大きく、今後とも継続していくためにもバランスを考える必要がある。</p> <p>③校内外の行事は、特定の生徒への負担が大きいため役割分担を行い、業務のバランスをとる。新校に向けての意見交換はリモートを用いながら続けていく。</p>	<p>①ICTの活用により学習が深まったという意見が8割を超えているのは立派である。今後は小中学校時代に当たり前のようにタブレット端末を活用した授業を受けた生徒が入学してくるので、すべての教科で利活用が進むように職員研修の充実に努めていただきたい。</p> <p>②資格取得は工業高校の特色の一つである。専門科目の学習を深め、意欲を高めるきっかけにもなるので目標を決めて計画的に取り組んでほしい。生徒数が減少傾向であり、受験数や合格者数だけでなく割合をもとに推進状況を評価する必要がある。</p> <p>③生徒に多様な価値観がある中、できるだけ多くの生徒が自分事として捉えられるような行事の内容として、様々な方法で参画できるように参画方法を検討してほしい。新校に向けて両校の生徒の良さや強みに目を向け、伸ばすような支援、指導を続けてほしい。</p>	<p>①ICT活用については多くの教科で着実に取り扱っており、今後タブレットの全学年への導入についても期待される。</p> <p>②各種検定の合格率は昨年度に比べ、上昇した。自信を持った生徒同士、自分たちで勉強会を開き、また、同じ目標を持つ後輩に3年生が教え、指導する姿が見られた。今後とも互いに切磋琢磨する環境が維持できるかが課題である。</p> <p>③生徒会本部の業務低減に向けて多少進んだが、より一層各担当が責任を持つて行えるように整備する必要がある。また、新校に向けて両校の生徒が主体的に活動する機会を今後も作る必要がある。</p>	<p>①ICTのさらなる活用について、個人タブレットの活用を充実させるため、職員の研修をさらに進め、利用率をより高めていきたい。</p> <p>②ものづくりコンテスト等を通して資格に興味を持ち、自ら勉強を始めた生徒ほど多くの生徒の意識改革を進めたい。そのためには、全科職員の協力が必須である。</p> <p>③各担当に当事者意識を持たせるだけでなく、ゲーグルフォームやスプレッドシートなどICTを活用することで、生徒会本部の業務低減を行う。また、新校に向けてはリモートなどを併用し負担を減らしながら、引き続き新校に向けて制服、生徒会規約など両校生徒会を中心に話し合いを持たせ決めていく。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①個に応じた支援のための組織的な教育相談体制を充実するとともに、基本的生活習慣の確立に向けたきめ細かい生活指導に取り組む。</p> <p>②部活動の活性化や各種コンテスト、競技会への参加を通して、生徒の達成感、連帯感、責任感を涵養する。</p>	<p>①SC、SSW等と協働し、個に応じた支援のための組織的な教育相談体制を充実させるとともに、身だしなみ指導の充実や、規範意識を高める取組を推進する。</p> <p>②生徒が行事や部活動に主体的に取り組める体制を整えるとともに、生徒にとって安全安心な学校生活を健康的に送れるようにする。</p>	<p>①学習や生活に課題を抱える生徒を全体で支援するため定期的な教育相談会議を行い、教員間での情報共有を行う。身だしなみ指導を通じて生徒への意識付けを強化する。</p> <p>②生徒会役員を中心に、部活動紹介や見学の充実、行事の運営などを主体的に行える体制作りに取り組むことで部活動や行事の活性化を図る。</p>	<p>①生徒の課題を職員間で共有し、課題を解決することができたか。昨年より生徒の事故件数が減少したか。</p> <p>②部活動への生徒参加数や活動意識が高まったか。また、アンケート等の結果、生徒会行事の充実が図れたか。</p>	<p>①年度当初に教育相談会議を2回実施し、全職員で全校生徒の情報を共有し、生徒指導・支援に資する力を高めた。SC・SSW面談記録を回覧し、情報共有を図った。校門での身だしなみ指導を2回行った。</p> <p>②今年度の球技大会は、夏季のアンケートを冬季の種目決めに、また、他の行事は昨年度の意見を反映させた。</p>	<p>①教育相談会議のさらなる充実と問題行動件数の減少を目指す。また、身だしなみ指導や校内指導を定期的に行い、生徒の規範意識を高めるとともに生徒指導事案を未然に防止できるよう取り組む。</p> <p>②文化祭はコロナウイルスが5類に移り実施形態が昨年度と状況が異なるため、昨年以前の情報も取り入れ行事の充実を図る。</p>	<p>①生徒にとって教職員に理解されていると実感できることが、全ての指導の基幹となるので、工業各科ごとのケース会議や教育相談体制をさらに推進してほしい。指導については、なぜその指導が必要なのか、意義について生徒に伝わるように工夫してほしい。</p> <p>②コロナ禍以前と同様に戻すのではなく、新たな生活様式を見据えた活動としてもらいたい。部活動等を通じて楽しい3年間の高校生活を送り、少しでも自己肯定感を高められる体験活動をさせてほしい。</p>	<p>①サポートドッグを年2回実施し、またSSWの配置により教育相談体制が充実した。今後も生徒の支援体制を強化したい。特別指導件数が手前三箇年で最も多くなった。</p> <p>②10月の部活動集会や生徒発表で2・3学期の委員会集会を行うことで、所属意識や役割の認識を持たせられた。今後もより一層生徒の意見を取入れ、生徒自身に主体的に取り組む意識を持たせる必要がある。</p>	<p>①悩みを抱える生徒を早期に発見することが大切である。職員と教育相談担当者との連絡を密にしていきたい。これまで以上に、きめ細かい指導が必要である。</p> <p>②今年度の新規の取組みの継続はもちろん、行事では事前事後のアンケートを活用し今後も生徒の意見を取入れた行事の運営を行い、生徒の主体性・自己実現力を養わせる。</p>
3	進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導、</p>	<p>①生徒一人ひとりの個に応じた進路指導や支援、</p>	<p>①PTAと連携して進路説明会を実施する。県西地区や各</p>	<p>①進路説明会を実施できたか。また、インターンシップ</p>	<p>①PTAとの連携で進路説明会を実施し、82%の保護</p>	<p>①インターンシップの実施は、2学年等と協力し組織</p>	<p>①ミスマッチによる早期離職や退学等が課題となっている。ミスマッチがないよう</p>	<p>①県西地区のインターンシップを中心に希望生徒を参加させる</p>	<p>①インターンシップについては、次年度よりコンソーシアムサポータ</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月15日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	支援の充実を図る。 ②これからの時代を生きて行くうえで必要な資質や能力を育成するためのキャリア教育を推進する。	インターンシップ、デュアルシステムによる職業体験を充実する。 ②キャリア教育を充実させるためのガイダンスを推進する。	科のインターンシップを充実させ、デュアルシステムの活用も推進する。 ②学年に応じたキャリアガイダンスを企画する。キャリア・パスポートを活用しながら、目標設定や振り返りを行う。	やデュアルシステムを通して、生徒の進路に対する意識が向上したか。 ②キャリアガイダンス実施後のアンケート結果から、生徒の進路に対する意識が向上したか。	者が参考になったと回答した。県や地区のインターンシップに参加した。 ②キャリアガイダンスにより、約8割の生徒の進路選択の意識が向上した。キャリアパスポートも、全学年に配付し、学期ごとに目標設定と振り返りに活用している。	的かつ計画的に進める必要がある。各科のインターンシップの実施状況に課題が残る。 ②綿密に打合せ、年間を通して適切な内容で実施できている。今後は他社の企画を考慮しながら検討が必要である。	にインターンシップやデュアルシステムに力を入れてほしい。 ②進路未決定者が極端に少ないのは一年次からの計画的なキャリアガイダンスの賜物と評価する。一人ひとりが、自分の強みを生かした進路選択ができるように、これからも支援、指導をお願いしたい。	ことができた。また、デュアルシステムとしても新たな取り組みをすることができた。次年度は、より多くの生徒が経験できるような仕組みづくりを行いたい。 ②計画的なキャリアガイダンスにより、8割の生徒の進路選択への意識が向上している。今後もより充実したガイダンスを推進したい。	一が配置されることから、本校の実情に合ったインターンシップ先の開拓に向け、連携していきたい。デュアルシステムは、課題研究にいかに取り入れることができるか周知していきたい。 ②業者選定により、より充実したガイダンスを実現するとともに、新たな教育効果を見込んだプランの検討等を進めていきたい。
4	地域等との協働 ①地域産業や地域社会との連携、協働による教育活動の充実に取り組む。 ②地域や中学生に工業高校の魅力・特色を発信するため広報活動の充実を図る。	①自治会や地元企業、PTAの取組を検証し、さらなる連携強化を行うことで、生徒の教育活動の向上につなげる。 ②学校主体のイベントや地域行事が再開しつつある中、本校の特色を生かし、体験学習会を開催する等、学校の魅力や特色の周知を行う。また、最新の情報の発信にも努める。	①地域やPTA、学校運営協議会から寄せられた意見をフィードバックし、さらなる連携の強化につなげる。 ②本校の特色を生かした、体験学習や学校説明会を企画・運営し、学校の魅力発信につなげる。さらにHPだけでなく、昨年度に引き続き、SNSにも力をいれ情報発信を行う。	①地域と連携したものづくり活動の実施などができたか。また、アンケート等の結果、地域やPTAから良好な評価が得られたか。 ②学校説明会や体験学習会の参加者からのアンケート結果から企画内容の評価を行う。また、アンケート結果からHPやSNSを含む広報媒体の効果について評価する。	①地域のお祭り等に科、部活動が参加した。また、PTA活動として体育祭やマラソン大会等に参加し、生徒の活動をサポートした。 ②SNSを利用し、本校の活動を校外にPRすることができた。保護者からの評判も好評であった。体験学習会、学校説明会は参加者も定員を満たし、参加者アンケート結果も好評であった。	①様々な催しが再開となり地域との連携の機会が増えた。そうした中、新たな連携の場を教育活動向上の視点で選択する必要がある。 ②SNSを利用してタイムリーに学校の情報を地域の方や保護者に届けている。一方で教員主導の発信がほとんどであり、生徒からの発信の場を増やしていきたいと考えている。	①生徒にとって、ものづくりを通して地域で活躍することは大きな成長の場となる。担当する教員個人に負担がかからないように組織的な対応をお願いしたい。 ②SNSを通じて学校の情報を生徒・保護者と共有することは大事である。HPで中学生やその保護者に学校の魅力を発信することにもさらに取り組んでほしい。生徒の皆さんが地域のイベント等に協力されることは、地域の皆さんにとってたいへんありがたい。引き続き地域活動に積極的に参加してほしい。	①本年度は昨年度より多くの地域の行事等に参加をすることができた。校外での活動によって、生徒に新たな学びの場を提供することができた。課題としては、これらの参加が教員個人の負担になっていることが挙げられる。 ②SNSによる情報発信を継続的に行うことができた。今後は、生徒主体の魅力的なコンテンツを発信することが重要であると認識している。	①参加する行事を精査するとともに、仕事を個人でなく、グループで取り組むようにする。そのために、組織的な仕組みづくりと、情報共有を徹底する必要がある。 ②保護者や生徒会と連携を行っていく。情報収集を行い、生徒主体の情報発信の土台作りを来年度より行っていく。まずはホームページの内容を充実させ、本校に関心がある中学生に魅力を伝えることを優先に行っていく。
5	学校管理 学校運営 ①生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備、防災体制の整備に取り組む。 ②研修による意識啓発、業務の共有、協働、効率化をめざし、働き方改革の推進と事故不祥事の未然防止を図る。	①学校安全を第一に防災意識及び防災意識を高められるよう防災訓練等の実施と防犯体制の見直し、及び、一人一台端末の利活用に伴うICT環境を整備し、生徒が安心して学校生活を送れるようにする。 ②働き方改革を推進するとともに業務改善の推進と不祥事の未然防止に努める。	①生徒の防災意識を高められる防災訓練等の在り方を検討し、実施する。校内の防災・防犯設備を確認する等、防犯意識を高める。ICT環境においては引き続き、利活用に適する環境を検討し、整備する。 ②各業務の見直し等により、職員相互の補助を進め、組織全体の業務改善を行う。	①生徒の防災意識を高める防災訓練が実施できたかアンケートにより意識改善が見られたか。防災・防犯意識を高める取組が実施できたか。ICT環境設備の改善ができたか。 ②職員相互の連携や協働により、個人に業務が集中することなく、遅滞や事故なく業務を遂行できたか。	①防災訓練を3回実施し、アンケートで防災意識が高まったと多くの生徒が回答している。情報環境整備はHDMI端子の故障改善の工夫により、故障回数が減少した。 ②グループリーダーや一部の職員の業務負担が大きい。不祥事防止研修会等の啓発活動を継続し、不祥事が起きない環境づくりに尽力した。	①防災意識を高め、事前の備えを考えながら適切な行動ができる生徒の育成を目指し、防災訓練を検討・準備していく。 ②業務が一人に集中しないよう、各グループ及びグループ間の業務平準化をさらに進める。研修等を実施すると同時に、働き方改革を柱に事故の起こりにくい職場環境整備を進めていく。	①生徒の防災意識を高める活動に敬意を表します。今後も大震災を教訓に命を守る防災意識の向上を図っていただきたい。 ②教職員の不祥事で一番傷つくのは生徒とその保護者であることを常に意識した事故・不祥事防止の取り組みを期待する。課題の解決にあたっては専門家の活用とともに実行予算の確保などにも努めてもらいたい。	①一人ひとりの防災意識を高める防災訓練を実施し、HR教室のHDMIケーブルを整備した。生徒に当事者意識を持たせる防災訓練の在り方を検討する。HR教室のHDMIケーブル故障率を0に近づけることとICT環境の整備を目指す。 ②各グループリーダーに業務の負担が大きくなる時期があった。不祥事防止研修会等を通じて全職員が規範意識を持ち、業務を継続する。	①一つひとつの防災訓練について効果的な内容を検討し実施する。HDMI配備の工夫により故障率0を目指す。またICT環境の満足度を調査し、整備を進める。 ②職員相互の連携により、業務が一人に集中することなく、遅滞や事故なく業務が遂行できるように、職員全体で業務の標準化をさらに進める。引き続き、当事者意識を持てるような研修等を実践すると同時に、働き方改革を柱に事故の起こりにくい職場環境整備を進めていく。